

イデキョウホーム株式会社 富士市

高断熱セルロースファイバーを標準装備

所在地 富士市伝法1335
業務内容 静岡県東部地域を中心に戸建ての家づくりを行う住宅メーカー。地震に強い長期優良住宅にこだわり、省エネでありながら快適で、高品質な住まいを提供。



概要 取組内容紹介

国が普及を推進する「長期優良住宅」の基準を標準装備。住宅版BELSも全棟取得。紙のまち富士生まれの高断熱・高気密にすぐれた天然素材の断熱材「富士産eco断熱」を全棟に施工。



環境課題の解決 古新聞を原料に、再生可能な断熱材を自社で製造、施工

環境ビジネスとしての注目すべき着眼点

海外での施工例から、機能性の高さに着目

20年ほど前、同社に最適な断熱材の情報を集め、試行錯誤をしている時、海外で施工されていたセルロースファイバー製断熱材の存在を知り、その機能性の高さに着目した。セルロースファイバー製の断熱材は、新聞紙などの再生紙を細断し、難燃剤としてホウ酸等を添加したものであり、それまでは海外製品を使用していたが、高コストが課題であったこともあり、製造機械を導入して自社製造に切り替えた。

原料には駅やコンビニから回収した未使用の新聞紙を使用している。製品の性能を十分に発揮するため、製造から施工までを自社で行っている。同社によれば、自社で製造から施工まで行っているのは全国でも数社のみだという。また、隙間なく詰めるための技術を持った人材の育成にも取組んでいる。

製造エネルギーも、暮らしもエコに

セルロースファイバーを使用する場合、製造に係るエネルギーが他の断熱材と比べても小さく、環境に負荷をかけずに製造できるという利点がある。また、ホウ酸等添加することで、断熱、防火、調湿、防音、防虫にも優れた効果を発揮する。「富士産eco断熱」が施工された住宅は、断熱性能UA値が0.46以下と2018年UA値の静岡県の省エネ断熱基準0.87より優れた値となっている。断熱性能が高いため光熱費を抑えることにつながる。

※値が小さいほど省エネ性能が高い。



展望

他にはない断熱材は、住宅メーカーとしての強みにも

国の政策でZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の導入が進められている。消費エネルギーを大幅に減らすことが求められており、これからの住宅は、高断熱、高気密が前提となる。現在、イデキョウホームで着工する住宅のすべてに、自社で製造する「富士産eco断熱」を使用しており、高気密・高断熱の住宅づくりを実現している。また、耐震や耐火、白あり対策に及ぶまで、長く快適に住めるよう考えられている。今後も「富士産eco断熱」は、同社の住宅の最大のメリットとして必要不可欠な施工となる。

国土交通省が定めた「建築物の省エネ性能表示のガイドライン」に基づいた指標BELSでも最高性能★★★★★(星5)を取得しており、殆どの住まいでZEH基準を満たした高性能住宅と認定されている。

背景・地域課題 求められる省エネ性能

快適な家を作るためには断熱材が重要となる。圧倒的な断熱性能を持つセルロースファイバーは、天然の木質繊維を使用した断熱材であるため、地球環境だけでなく暮らす人の健康面でもメリットが大きい。イデキョウホームでは、富士山の環境保護を目的に地元木材を使用し、また輸送のためのCO2削減を目指し、できるだけ

地産地消を行ってきた。

「富士産eco断熱」についても、安定的に供給するため自社工場で専門に製造している。近隣で不要となった未使用の古新聞のみを使用しているのは、異物混入等の仕分けコストを抑えるためである。断熱材がすぐれていても施工技術が伴わなければ意味がないため、自社で技術者の

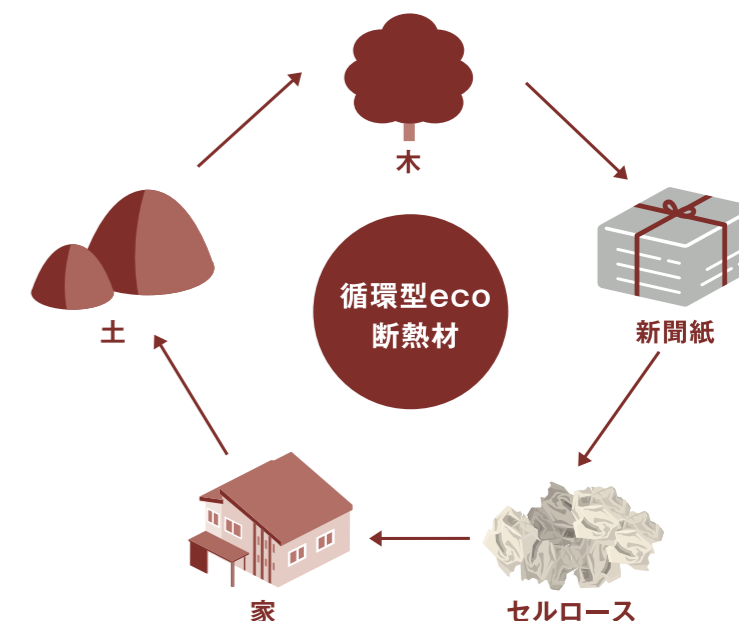
育成も行い専門のスタッフが対応している。

他の断熱材に比べて高コストなのが唯一のデメリットであるが、化学系断熱材の値段が上がっているため、自社製造の強みでその差が縮まっているという。

具体的な取組内容 「富士産eco断熱」の自社生産、施工

自社工場で製造した「富士産eco断熱」を壁・床・天井に隙間なく吹き入れて施工する。

圧倒的な断熱性能のほか、高気密により防音性能も高い。元が紙のため、吸湿性や結露の防止にも優れ、難燃材のホウ酸を添加することで防火性能だけでなく害虫を忌避することにも効果を発揮する。ウレタン吹付等の断熱材は他素材の建材と接着しているため、解体した場合には廃棄処分となるが、「富士産eco断熱」はそのまま再利用することが可能なため、製造から廃棄までを通して環境負荷が少ないことも特徴である。



今後の活動 2050年カーボンニュートラルな世界に向けて。さらなる取組を

当社の住宅は、長期優良住宅の認定をとっており、長く快適に住んでもらえるものだと思っております。そしてそれが住宅メーカーとして、お客さまに選ばれる価値にもつながっています。日本では20年以上たった家の資産価値が0となる習慣があり、30年で建て替えるのが一般的です。しかし、この考え方を変えなければいつまでも豊かになれないのではないかと考え、2代、3代続いて住める家で、かつ環境にも良い住宅をつくっていきたいと思います。

「SDGs未来都市富士市」における先進企業等の登録企業にもなりました。原材料費や工事費、電気料金等が上がっているからこそ、ローエネルギー住宅の価値がより高まっています。イデキョウホームは地球温暖化の防止に向け、今までも積極的にSDGsに資する取組に励んできましたが、これからも2050年カーボンニュートラルな世界に向けていまだ私たちができることに真摯に取組んでいきます。

イデキョウホーム代表取締役 社長 井出 克広

